

育苗管理特報

令和7年3月10日
黒東地域農業技術者協議会

健苗育成は、高品質で良食味な「みな穂米」へのはじめの1歩！

- ・5/15以降を中心とした田植えに合わせた育苗計画を立てましょう！
- ・がっしりとした健苗に仕上げるため、浸種温度や日数、ハウスの温度管理を適正に行いましょう！

育苗作業

薬剤未粉衣種子の場合
(薬剤がついていない種粃)

薬剤粉衣種子の場合
(薬剤がついている種粃)

種子消毒

薬 剤：モミガードC・DF

消毒時間：24時間

種粃と薬液の容量比は1：1以上

(重量比で種粃重の2倍以上の薬液を準備)

種粃	水	モミガードC・DF
50kg	100L	500g
100kg	200L	1000g

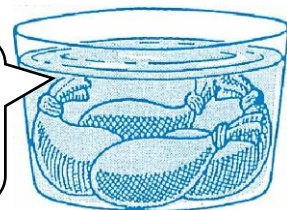
- ・消毒液の温度は10～15℃を保ちましょう。
- ・消毒後の残液は、河川等に流出しないよう、適正に処理しましょう。

浸種

- ・浸種時の水温は10～15℃を保ちましょう。特に、浸種初日は12.5℃をしっかりと確保しましょう。浸種時の水温が低い場合は、あらかじめ足し湯などにより15℃程度の水温を確保してから浸種を開始しましょう。
⇒浸種桶は日光が直接当たらない場所（日かげ等）に置き、温度計により水温を定期的に確認しましょう。
- ・薬剤の効果を高めるため、浸種から3日間は水を交換しないでください(流水中での浸種や頻繁な水の交換は、薬剤の効果を低下させます)。
- ・その後、水の交換は2日に1回程度としましょう。その際に、種粃ネットをよく揺すり、上下を入れ替えましょう（種粃への給水と酸素供給）。
- ・浸種後半は粃の状態をこまめに確認し、芽の伸長が予定より早回った場合は、速やかに冷水に浸けましょう。
- ・早生品種や富富富は、休眠が深く出芽がバラツキやすいので、浸種は1～2日長めに行いましょう。

【水はたっぷり！】

種粃への酸素不足、水温の急激な変化を防止するため、乾粃100kgに対して、水は360L以上入れましょう（容量比1：2以上）。



催芽

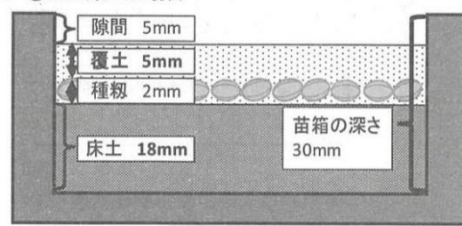
- ・育苗器を使用する場合は、30℃を厳守してください。
- ・芽の長さは、ハト胸～2mm程度が目安です（伸び過ぎないように注意）。

田植時期にあわせた育苗計画で、「みな穂の米づくり」に取り組もう！

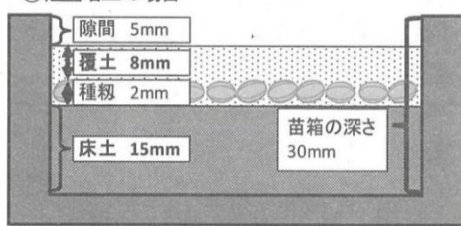
播種

- ・1箱当たりの播種量は、乾粃で120g（催芽粃で150g）です。
- ・かん水を床土内部までむらなく浸み込ませるため、覆土の表面を育苗箱の上面よりやや低くしましょう。

①加工床土の場合



②軽量培土の場合



軽量培土を使用する場合は、粃の露出を減らすため、床土を15mmと少なめ、覆土を8mmと多めにする。

出芽

- ・育苗器の温度は、29～30℃を厳守してください。
30℃を超えると、カビや苗立枯病が発生する原因となります！
- ・事前にサーモスタットが正しく作動するか必ず確認しましょう。

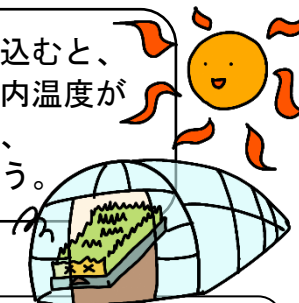
搬出

- ・ハウス搬出直後は、土が落ちつくまで水をしっかりかけましょう。
- ・被覆資材は緑化後に速やかに外しましょう（搬出2～3日後が目安です）。

ハウスの温度管理

苗のステージ	出芽期	緑化期	硬化期
育苗日数	3日	2～3日	13～15日
温度	昼	30℃	25℃以下
	夜	30℃	10℃以上

日差しが差し込むと、急激にハウス内温度が上昇するため、注意しましょう。



密苗について

密苗は苗箱の使用数を減らせる反面、一般苗と比べて育苗日数が短いことに加えて、播種量が多いことから、苗の老化が早くなります。密苗の特徴を考慮して、計画的に作業が実施できるように努めましょう。

○密苗は育苗日数16日程度で十分な苗に仕上がります。

密苗は一般苗と比べて苗質が急激に低下しやすく、田植適期幅4～5日程度と非常に短いので、田植時期に合わせた育苗計画のもと、ほ場準備（耕起・代かき等）を行いましょう。

【密苗における育苗計画の目安】

浸種日	催芽日	播種日	田植日	育苗日数
4月12日頃	4月20日頃	4月22日頃	5月10日	18日
4月21日頃	4月27日頃	4月29日頃	5月15日	16日
4月28日頃	5月4日頃	5月6日頃	5月20日	14日

※播種は田植え予定枚数分とし、まとめて行わないでください。

○密苗は細菌性病害やカビなどの病害が発生しやすくなります。

密苗は一般苗と比べて軟弱徒長苗になりやすいことから、慣行以上にハウス内の温度管理（ハウス内温度が25℃以下となるよう、換気を徹底）には留意しましょう。特に4月下旬以降の播種では搬出直後から積極的に換気を行いましょう。